

札幌 市民防災

第13号

平成27年10月31日
札幌市民防災団体連合会

発行責任者 田畑 隆二

平成27年度 札幌市民防災団体連合会定期総会開催

平成27年5月22日27年度の定期総会をかでの2・7において、会員、団体代表者のほかご来賓として札幌市から危機管理対策室小田原史佳部長をはじめ例年にない多くの関係者の皆様のご出席を戴き、平成27年度定期総会が盛大に開催されました。

田畑会長の挨拶に引き続き小田原部長様よりご祝辞を戴き、議長選出後26年度の事業報告決算、27年度の事業計画、予算、会則一部改正、しおり作成について、役員選出などを全会一致で採択されました。

総会では受賞団体のみでなく他団体加入など、現（57団体加入）を検討してはどうか、又、会とし未加入団体に対し活発なピーアルの必要性について話しあわれました。総会終了後情報交換、懇談会へと会場中村屋旅館へ移動し、自己紹介、町内会活動等について普段聞く事の出来ない活動内容をお聞きすることが出来大変有意義な情報交換でした。参加された方々より多くの方に参加してほしいとの声あり。

総会、情報交換会の皆様の声を大切に連合会として災害、防災に強い地域づくりに皆様の協力を頂きながら市民として安心して生活出来る地域づくりに市、参加団体と共に取り組んでゆきたいと思えます。



札幌市防災団体連合会役員名簿

新役員一同微力ですが皆様のご協力を宜しくお願いします。

会 長	田 畑 隆 二	北 郷 親 栄 第 一 町 内 会 (白 石 区)
副 会 長	家 登 正 美	幌 北 第 4 町 内 会 (北 区)
副会長兼広報部長	渡 辺 恵 美 子	西 岡 見 晴 町 内 会 (豊 平 区)
事 務 局 長	阿 妻 一 直	上 盤 溪 町 内 会 (中 央 区)
事 務 局 次 長	工 藤 広 幸	北 郷 親 栄 第 一 町 内 会 (白 石 区)
会 計 部 長	堀 合 英 喬	東 北 野 町 内 会 (清 田 区)
広 報 副 部 長	石 川 美 代 子	北 斗 町 内 会 (豊 平 区)
監 査	高 田 和 志	グリーンプリバー月寒東町内会 (豊 平 区)

「平成27年度定期総会」を終えて

札幌市民防災団体連合会 会長 **田畑 隆二**

平成27年度定期総会が5月22日（金）かでの2・7におきまして、多くの会員出席のなか、ご来賓に札幌市危機管理対策室 小田原部長のご出席を賜りご挨拶も頂きました。

総会では、事業報告・決算報告・事業計画（案）予算（案）・役員改選（案）・会則改正（案）等各議案におきまして承認され終了いたしました。

今年度は、当会の創立10周年を迎えます。会員の皆様が自主防災活動の更なる精進に繋がる運営を進めて参りたいと思っております。特に、札幌市危機管理対策室との連携を図り、広報活動の充実、新しい防災活動情報の収集及び発信活動、講演会の開催等の事業を計画しております。

これからも、当会を通じて会員各位の防災活動の充実、安心・安全のまちづくりの推進に、ご協力を宜しくお願い申し上げます。



懇親会での挨拶

ご来賓挨拶

自主防災活動は、「自助、共助」の精神…

札幌市危機管理対策 **小田原部長様**

本日ここに、札幌市民防災団体連合会の総会が開催されますことを、心からお慶び申し上げますとともに、皆様方におかれましては、日頃より自主防災活動をはじめ、地域のまちづくり活動に率先して取り組んでいただいておりますことに、この場をお借りしまして、心より敬意を表すところでございます。

皆様ご承知のとおり、昨年9月11日には、道内で初めて「大雨特別警報」が発表され、市の対応といたしましては、昭和56年8月以来、33年ぶりに札幌市災害対策本部を設置し、避難勧告の発令や避難場所の開設など、市民の方々の安全を確保するための対応を行ってきたところです。

幸いにも人的被害の発生はありませんでしたが、避難所開設の遅れ、市民の方々への不十分な情報提供、職員の参集遅れ等の課題が明らかになったところであります。

この経験を無駄にすることなく、次に活かすという観点から、わたくしたちは、これら課題に対する対応策の検討を行い、改善に向けて取り組んでいるところです。

市といたしましては、今後とも、「災害に強い都市をめざしたまちづくり」を目指す取り組みを行ってまいります。過去の震災の教訓にもありますとおり、行政の力だけですべてに対応することは不可能であり、災害時の被害を最小限に抑えるためには地域の皆様方の力が必要になってまいります。

その際に柱となるのは、皆様方、日頃取り組んでおられる地域の自主防災組織の活動ということでございます。



左側 小田原部長

自主防災活動は、「自助、共助」の精神のもとで、地域における触れ合い、町内会等の活動を通じて、住民同士が連携しながら、防災のために共に行動するコミュニティ活動の一環でありますので、今後とも、地域に根差したまちづくりの中で、防災への取組をより一層推進していただきますようお願い申し上げます。

結びになりますが、札幌市民防災団体連合会の更なるご発展と、ご出席の皆様のご健勝をご祈念いたしまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

平成27年度 札幌市総合防災訓練開催

今年度札幌市主催の総合防災訓練は9月1日、清田区の「イオンモール札幌平岡」を主会場に実施されました。

今回の訓練は、昨年9月の豪雨災害を教訓に、土砂災害や水害が発生し、さらに直下型地震により被害が拡大したとの想定で行われました。

この訓練では、地域住民と中学生が協力して避難誘導や負傷者救出を行うなど、地域での「共助」を意識し、実災害への対応強化を図りました。

また、自衛隊や警察、消防など防災関係機関による救出救助訓練、北電、北ガスなどライフライン企業による復旧訓練、災害防止協力会などの防災協力団体による緊急輸送路確保訓練などが実施されたほか、応急救護所では搬送された負傷者の「トリアージ（優先度判定）」を行い、今迄体験したことのない応急措置を実施しました。



土砂災害訓練



講評を終え笑顔の秋元市長



救出救助訓練

【訓練終了後の秋元市長の講評】

札幌市総合防災実施にあたり多くの皆様方にご支援、ご協力を頂き感謝申し上げます。いつ起こるかわからない災害に対しての日頃から心を引き締めながら、災害が起きた時にどのように行動すればよいか日頃から考えなければならないことを改めて身に染みて感じているところです。今日は、救助の訓練、復旧の訓練等それぞれの役割を果たしていただいて札幌に災害が起きた場合でもしっかり対応していけることを感じました。

訓練に参加していただいた各専門機関、町内会連合会や中学生など地元の皆さんにお礼申し上げます。訓練に参加して改めて日ごろからの備えの大切さを痛感しました。

札幌市では、市民の皆さんとともに災害に強いまちづくりに努めてまいりますので今後ともご協力をお願いします。

札幌国際プラザ 「防災バスツアー2015」について

「防災の日」の9月1日(火)、札幌国際プラザ「防災バスツアー2015」を実施しました。

札幌に住む外国人と日本人とが一緒に防災訓練などに参加することにより、ともに防災意識を高め、互いに助け合うことが重要だと思ってもらうこと、そのために『ふだんからの準備やコミュニケーションが重要』と覚えてもらう機会としたこの事業には、外国人15名、日本人11名の計26名が参加しました。

在札幌米国総領事館トール領事を含む一行は、まずは札幌市総合防災訓練が開催されている清田区平岡へ。煙道やバケツリレーなどの体験訓練に参加し、地元小学生などと協力し合って災害時の避難や支援を経験しました。その後は市民防災センターでの体験や講話、最後に護身術体験などをして、1日を通して様々な『身を守る』ことを学び、考える機会となりました。

札幌国際プラザは、災害時に『災害多言語支援センター』として機能します。また普段から多言語の情報ソースとして活用していただくことができます。今後も、いざというとき外国人と日本人がともに助け合えるまちづくりに向け、災害へ備える事業を行っていきます。



地元小学生、地域住民とのバケツリレー体験

防災訓練には
国境はありません
札幌市での訓練を
是非母国でも
参考にしてほしい
ものです

防災、災害訓練は子供の時から身につけよう

西岡見晴町内会 会長 **渡辺 恵美子**

当町内会は高齢者70才以上124名の高齢者町内会、毎年敬老のお祝をくばり安否確認と励ましの言葉を掛け、災害に対しての日頃の心掛け、近隣との心と顔見知りの輪を広め、町内会ぐるみの活動を行っています。

大人になってから災害に対する心掛けではなく近年特に災害が大変多く発生し、大切な生命を亡くしています。町内では札幌市より表彰されましたのを機会に防災に関する大型紙芝居を作成、こどもの時から防災に感心を持ってもらう内容、小学校への出前講座、子ども会行事、民生委員主催研修会、老人福祉施設等へ貸し出し、又誕生会へ行き訪問先から喜ばれております。

タイトル「こんなときどうするの」、自宅防災でこどもから高齢者達が見て聞いて感心のもたれる内容です。

とっさの行動にはくり返しくり返しの心得は何度行っても無駄はありません。土砂災害の日頃の心得を家族で話し合う事が大切です。



防災問題をテーマに地方都市連合町内会と初の交流 (帯広市町内会連合会役員を迎えて)

中央区南円山緑ヶ丘町内会 会長 **矢萩 弘志**

去る7月8日(水)午前9時30分から、市内中央区たんぼぼの丘(介護老人福祉施設)地域交流センターで、帯広市町内会連合会役員16名と当町内会防災担当役員6名が、防災問題への取り組み状況等の情報交換を行いました。この交流は帯広側の申し入れで実現しましたが、地方都市の町内会連合組織と札幌の単一町内会との直接対話は、極めて珍しいケースと聞いております。

情報交換では、特に当町内会が重点的に取り組んできた臨時避難場所としての国の出先機関庁舎の使用や、DCMホームマックによる避難場所での隔壁用ダンボールの無償による提供と搬送の協定締結に至る経過について、更には独居高齢者の避難誘導や避難所運営の在り方、防災意識啓発活動等さまざまな問題が取り上げられました。

帯広側の活動状況や対応面での問題、特に避難救助高齢者の把握の困難性等が報告され、当町内会にとりましても大いに参考になる等、今回の研修交流会は極めて有意義でありました。



HUG(避難所運営ゲーム)について

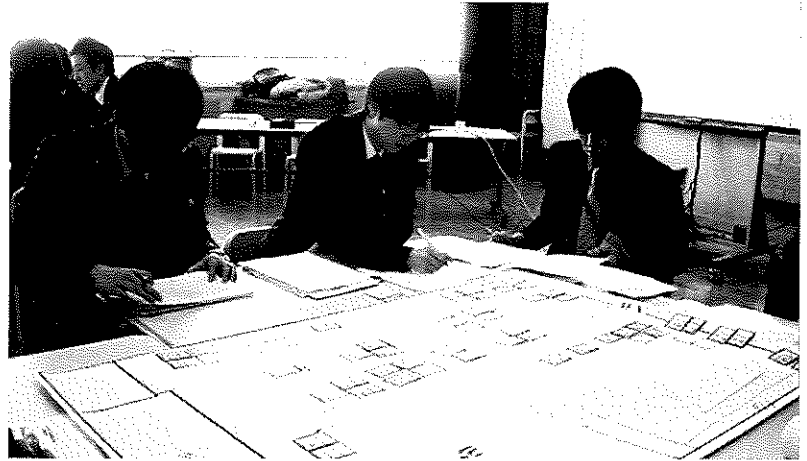
●HUGとは

HUG(ハグ)とは、H(hinanzo避難所)、U(unei運営)、G(gameゲーム)の頭文字を取ったもので、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

プレイヤーは、このゲームを通して、障がいをお持ちの方や乳幼児等への配慮をしながら部屋割りを考え、また仮設トイレの配置などの生活空間の確保、取材対応といった出来事に対して、思いのままに意見をだしあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所運営を学ぶことができます。

●HUGの特徴について

- (1) 具体的です
- (2) 体験的です
- (3) ゲーム感覚でできます
- (4) 誰でもできます
- (5) 楽しくできます
- (6) 効果があります
- (7) 簡単に実施できます



各町内会、自治体リーダーとして運営にあたり大変なことです。是非会員の皆様に広めていただきたいと思います。体験を希望される各団体、町内会の方はご一報を広報部へご連絡下さい。

収容避難所の管理、運営について

くわしい情報を知り方については

月寒東地域安全連絡協議会 会長 高田和志 856-6244番

編 集 後 記

今年は大きな水害災害が多発し、市民皆様日々心を痛めていることと存じます。お互い良き情報があればご一報下さい。又研修会も予定していますので決まり次第お知らせしますので皆様のご参加をお待ちしています。 広報 渡辺 恵美子 電話 011-851-9583番

印刷所 北晃社 齋加印刷所
札幌市西区八軒1条東5丁目
電話 011(631)1271